

県民保協たより

発行所 一般社団法人岡山県民間保育所協議会調査広報委員会 印刷所 二華園印刷 ☎ 086-526-6633



「吉備津彦神社」(岡山市)



「兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川
 夢は今もめぐりて 忘れがたきふるさと」
 故郷を懐かしく思い出すこの歌は尋常小学校唱歌として一九一四年に発表されました。自然や共に暮らした人々を大切に思う気持ちが心に響き、今も多くの人に親しまれています。学校では小学六年生でこの歌を学ぶそうです。さて、園には卒園児がよく顔を出します。生まれて初めての園生活には特別な愛着があり「もう一つのふるさと」になっていることを感じます。同窓会をはじめ、制服姿での寄り道、中には地元を離れる前にどうしても…と顔見せに来る卒園児もいます。園内を隈無く巡りながら、あの頃のワクワク感が戻ったような会話が弾み、その表情や声、仕種で私たちを喜ばせてくれるのです。又、卒園児の保護者の方ともスーパ器等で気軽に声をかけ合ったり、懐かしいエピソードに花を咲かせたりしています。改めて私たちはかけがえない「出会い」と「つながり」を持たせて戴いていることを有り難く幸せに思っています。今、園では職員の業務支援のためのICT化を進めています。これからも「心のふるさと」を何より大切に守っていききたいものです。

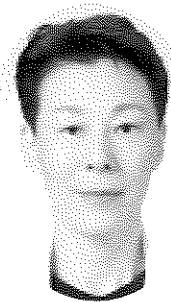
竹下 賀代子

保育探訪 Part4

～子どもを育てる保育～

就実大学大学院
特任教授

村中 由紀子



「共感能力」と「向社会的行動」を育む

近年、いじめの低年齢化が指摘され、思春期や青年期にまで及ぶ深刻な社会問題になっていきます。背景には、様々な原因が存在すると思われませんが、いじめの側の子どもにも共通しているのが、相手の気持ちを理解する力や相手の感情を共有する力、すなわち共感能力の低さです。

共感能力は発達のごく初期から発現します。保育場面でも、一歳前後で、泣いている仲間の頭をなでにいたり、自分のおもちゃを渡して慰めるな

ど、他者への思いやりやいたわり行動がみられると思えますが、このような向社会的行動は、三歳から五歳にかけて発達が高まります。そして、それには子どもの周囲にいる大人の態度が重要な要因となること、すなわち共感的で受容的な態度で子どもに関わることでよってより順調な発達が促されることが指摘されています。

このように、子どもの将来の人格形成に関わる共感能力や向社会的行動の発達には、保育者が日常の保育の中で、常に子どもの気持ちを受容し、共感的な態度で子どもに接すること、そして同時に子ども自身が自他の幸せな生き方を主体的に守ることができるよう、規範意識すなわち善悪のけじめをしつかりと明示していくことが求められます。

「受容」と「しつけ」

保育を行う上で、受容することとしつけること（規範意識を育てること）をバランスよく同時進行していくことが大切なのですが、これは簡単なことではないでしょう。

勝手気ままな行動を許すことは、受容ではなく放任ですし、保育者主導的な「しつけ」という名のもとにその行動を抑え込めば、子どもの主体的な自制心を育むことにはつながらず、表向きの見せかけだけの適応性を発達させることになりかねません。

子どもの行動に意味のないものではなく、特に気になる行動の背景には、必ず何らかの原因があることを考えると、直截的にその行動の修正を図ろうと働きかけるより、子どもの抱えている背景要因（寂しさ、悲しみ、不満、怒り等）を理解し、受容的な態度で接するこ

とが大切です。そのような保育者の態度により、子どもにとって保育園が安心・安全の場となり、情緒を安定させ、それが共感能力や向社会的行動を引き出すことにつながるのだと思います。

大切なのは、叱った後の向き合い方

とはいえ、保育者も人間ですから、一貫して受容的な姿勢で保育に臨むことは不可能に近いのではないのでしょうか。ルール破りを繰り返す子どもや、暴力的な子どもを目の前にすると「受容的な態度で共感する」ことに限界を感じて、つい強い口調で叱ってしまうことも無理のないことです。このような場合、子どもを思う余りの行動とはいえ、叱ってしまったことが胸の痛みとなって、保育者として自責の念に苦しみます。また、子どもの方も、叱られたことでつらく悲しい気持ちにな

りますが、いつもは優しい先生の思いがけなく強い態度に接したことで、自分のしたことの重大さに気付くこともあるでしょう。

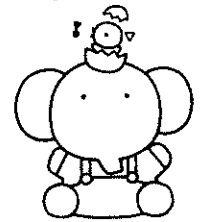
問われているのは叱つたことの正否ではなく、その後保育者が子どもにどのような向き合うかだと思います。「さつきは嫌だったね。」「先生も〇〇ちゃんのことを叱つて、胸が痛いよ。」「叱つたけど、先生は〇〇ちゃんのことが好きだよ。」など、子どもと感情を共有し、さらに「どうしたらよかったのか、一緒に考えようね。」など、その後の行動を方向付けることで子どもは保育者のことばを理解し、受け止めてくれるに違いありません。

「褒める」「叱る」
こと

このように考えると、「褒めて育てる方が教育効果上がる」とか、「叱

ると子どもが萎縮する」といった画一的かつマニユアルに依存した考え方は保育を硬直させ、子どもと保育者の伸び伸びとした個性の押し出し合いを阻害することになりかねません。

確かに、褒めることは子どもの意欲を高める効果があり、教育上広く一般的に推奨されていますが、子どもの保育者に対する信頼感が不十分な状況下では、いくら褒めても子どもの心には響かないでしょう。子どもの側に「自分は、先生に大切に思われている。」という安心感と、「先生が自分を見放すわけではない。」といった保育者に対する信頼感が基盤にあれば、叱られることも自らの行動を修正する力になり得ると考えられ、教育的に意味のある対応になるのではないのでしょうか。



岡山県民間保育所協議会主催
保護者研修会報告



『叩かない子育て』

〜小児科医からみた子どもを取り巻く社会状況〜

佛教大学 社会福祉学部 教授 武内 一 先生

十月十九日（水）うらやす白鳩保育園二階ホールで開催し、地域や他の保育園から六十名余りの参加がありました。

内容

まず、ワクチンについて分かり易く話をさせていただきました。次に「叩かない子育て」について、小児科学会や子どもの権利を擁護する立場から体罰を禁止している先進国の実態や、しつけと虐待の違いを伺い、「叩



かないと決めた子育ては楽しい」など子育てのヒントを沢山教えていただきました。また、先生が大学卒業後にかかわられた重症心身障害児施設のびわこ学園では、「誰もが大切にされる社会をつくっていくことは、そんなに難しくない。お金のかからない人づくりが生かされた社会づくりです。」と話されたのが印象的でした。

参加者の感想

「私自身叩かれて育った一人ですが、愛されて育ったと思っ
ています。自分が同じ子育てをしたら孫にも続く、その連鎖を食い止めなければならぬと思いました。」

他の参加者からも「子育て」や「命の大切さ」について改めて考え、社会が穏やかで、どんな命も尊ばれるよう願う感想が多く寄せられました。

うらやす白鳩保育園

園長 山木 真理子

『子どもの自律性を促す言葉かけと手だて』

就実大学・大学院非常勤講師 宮川 洋子 先生

十月二十九日(土) ちとせ保育園の大ホールで、保護者と職員を対象とした研修会を開催しました。

「生命力」「人間関係力」「自律力」この三つの柱が当法人ちとせ交友会の保育方針です。自分で考え、行動できる子に育てるには、どのような言葉かけと手だてが必要なのか、保育園ではどのような関わりを目指しているのかを保護者の方と共有で



できればと思いこの研修会を企画いたしました。

講師には、就実大学・大学院非常勤講師の宮川洋子先生に依頼し、ピアジェの構成論を基に、お話しいただきました。

予め、園児出演のビデオを撮影し当日映しながらの講演でしたので、和やかな雰囲気の中始まりました。まず、先生が保護者の方に問いかけられたのは、どんな子どもに育ってほしいですか?…やさしい子、思いやりのある子、自分で考え、行動できる子。自律した子。では、自律した子はどのように育て育つか。日常生活や遊びを通して促される、などのお話があり、最も基本にあるものは愛と信頼関係だと伝えていただきました。参加者は、総勢百二十五名で、具体的に保護者の方にもわかりやすく、今からでもすぐに実践できるお話をしていただきました。

ちとせ保育園

園長 樺山 貴美江

『乳幼児期の家庭教育』

『子どもとのより良いかわりとは』

山陽学園短期大学 幼児教育学科

准教授 荒島 礼子 先生

一月七日(土) くらしき健康福祉プラザで保護者研修会を開催しました。

まず、東日本大震災での保育士の臨機応変な対応の話に始まり、私たちは大切な子どもの命を預っている。お預かりした姿でお返しするべきだという責任の重さを改めて考えさせられました。また、先生の体験の中から保



育者と保護者両方の視点で子育てについての考えや思いに触れることができました。保育者に対しては、保護者の気持ちに寄り添いながら伝えていくこと、保護者の心に向き合うこと、目線に立つことの大切さについて、また保護者に対しては、子どもが一番の責任者として善悪の区別を伝えていくこと、子どもの心に向き合っていくことの大切さについて話をしていただきました。

保育者と保護者は子育てのパートナーとして一緒に悩み、考え、協力し合って子どもを心豊かに育てていくべきだということを教えていただきました。心にも強く育っていている子どもは強く育っていきそうです。私たちは、子どもたちにとっての心のふるさとであり続けたいと思います。

最後には手話を交えたうたを歌い講演終了となりました。

新田保育園

園長 古屋 友子

『夢の実現 〜挑戦することの大切さ〜』

柔道金メダリスト 古賀 稔彦 先生

一月十四日(土) 津山市リ
ジョンセンターで市内の保育園
(所)の保護者と職員を対象に
研修会を開催しました。

内容

最近では挑戦することなく、自
分で答えを出してしまう人が多
い。挑戦することで得た「喜び」
や「感動」、そこに至るまでの
「苦しみ」や「悔しさ」など実
体験から出た答えは、人生に与
える影響が違う。自身も、柔道
を始めた当初は、体も小さく、
喘息持ちであったため、試合に
勝つことができず味わった苦し
さや悔しさ、努力して勝った時
の喜びや、感動などが、柔道金



メダリストとなる上で大きな原
動力となった。また三回戦敗退
となったソウル五輪では、会場
で観客席に頭を下げる両親の姿
を見て「これまで自分だけでは
なく、両親も戦ってくれてい

た」と痛烈に感じ、親の存在や
周りの人の支えの大切さを痛感
したというお話で講演会を終え
た。その後の津山市保育事業協
会有木会長との対談で、「子ど
もにとって親の応援や支援は大
切だが、過度になると、プレッ
シャーとなってしまう場合があ
ることや、自身の子育ての話の
中で、まずは大人が正しい姿や
挑戦する姿を見せなくてはいい
ない。」というお話があった。

保護者の感想

子どもの可能性を信じて、子
どもが何かに挑戦しようとする
とき、壁を乗り越えようとして
いるときに、親が誰よりも近く
にいるという安心感を与えてあ
げたいと心に誓いました。

東津山保育園

園長 西口 元庸

『子どもに育てよう「思いやり」の心』

子育て支援コンサルタント 塩川 正人 先生

平成二十九年一月二十一日
(土) ゆりかご保育園で、岡山
市内七園が参加して保護者研修
会を開催しました。

「手伝う・励ます・ありがとう」
を「思いやり三原則」とし、
この三原則を実行すると、日々
の問題や混乱の解決方法を見つ
けることが出来る。「思いやり



の心」を実行する習慣が根付け
ば、やがて人格となり、全ての
困難を乗り越える力となる。思
いやり三原則を園と保護者が二
人三脚で取り組むことが大切で
あるとお話ししてくださいまし
た。

そして、子育てする上での自
分の課題、その改善方法を「思
いやりシート」に記入し、保護
者も保育士も一緒にグループに
分かれて発表しました。実
際に書いてみることで自身と向
き合い、またグループの人と話
し合うことで、思いやりの大切
さを実感することが出来まし
た。

今回は、保護者と保育士が、
子育てをする上での「思いやり
目標」を共有することが出来、
相互理解が深まる研修となりま
した。今後は、思いやりシート
も活用しながら、思いやり育
児・思いやり保育を継続してい
き、思いやりの素晴らしさを社
会に発信していきましようとお
話ししてくださいました。

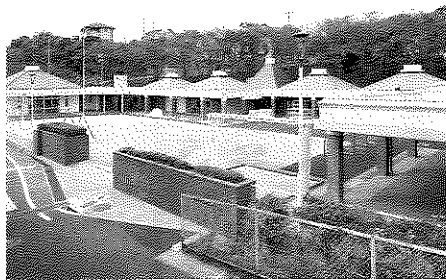
ゆりかご保育園

副主任保育士 森重 直美

わかみや保育園 (平成28年11月1日開園)

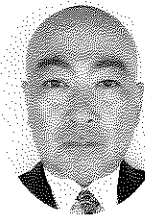
都窪郡早島町若宮4-1
(福)中野社会福祉協会 定員100名

旧早島町立早島幼稚園東分園を改修して開園した保育園です。三世代交流を基軸にした子育て支援や家庭的で心温まる保育を実践していきたいと考えています。
園長 野口 英臣



新規加入園紹介

新任園長紹介



〈倉敷市〉
東雲保育園
上西隆全先生

表紙のことば 「吉備津彦神社」

岡山市北区一宮に鎮座する吉備津彦神社は吉備津神社と並ぶ格式高い神社です。

吉備津彦神社は古代より背後の吉備の中山に巨大な天津磐座磐境を有し、山全体が神の山として崇敬されてきました。第十代崇神天皇の御世に四道將軍として遣わされた大吉備津彦命もこの山に祈り吉備の国を平定し現人神として崇められました。諸民と国を深く愛し永住された吉備中山の麓の屋敷跡に社殿が建てられたのがこの神社の起源であるといわれています。

江戸時代には、岡山藩主池田家の崇高厚く社領の寄

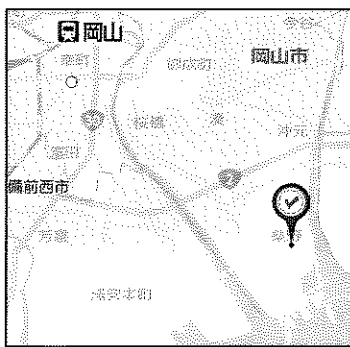
進やご社殿の再建が行われました。ご本殿の北に位置する子安神社(市指定重要文化財)は、子宝に恵まれなかった池田家藩主・池田利隆公が子安神社で祈願したところ、たちまち名君として有名な光政公を授かったという伝承から、子授け、安産の神として崇敬を集めています。現在も年始には多くの参拝者が初詣に訪れ、一年の感謝を捧げたり、新年の無事と平安を祈願したりしています。

元禄十年(一六九七年)に造られた本殿(岡山県重要文化財)をはじめ、歴史と趣のある社と山の緑は見る者の目と心を穏やかにしてくれます。吉備の中山から温羅の伝説を辿ったり、パワースポット巡りをしたり等、楽しみ方は人様々。吉備津彦神社はそんな全ての者を懐深く受け入れてくれる優しさと思議な力に満ちています。

渡邊 祐三

事務局からのお知らせ

来年度の定時総会は、平成二十九年五月十九日(金)、岡山ふれあいセンター(岡山市中区桑野七一五)にて開催予定です。例年とは場所が異なりますので、ご注意ください。



事務局職員の富田さんが、平成二十八年十二月より育児休業から復帰しました。



仕事も子育ても頑張ります。よろしく願い致します。
富田

この機関誌は、共同募金より一部助成を受けています。

編集後記

今は死語になった「子宝に恵まれる」という言葉と「子どもの最善の利益」をとるという言葉の違いは、主語を母親とすると、前者は母親の率直な子どもに対する慈愛を感じるが、後者は「母親の他者に対するより良い保育環境」の要求と感ずる。これが現代人的考え方である。

渡辺京二著「逝きし世の面影」では、幕末に開国を迫りに黒船で来航し、日本の社会と子どもたちの様子を本国に伝えた人々を紹介している。例えば、アメリカの通訳ハリスは、「今や私がいとしさを覚えている国よ。この進歩は本当にお前のための文明なのか。この国の人々の飾り気のなさを私は賛美する。この国土の豊かさを見、至る所に満ちている子どもたちの楽しい笑声を聞き、この幸福な情景が今や終わりをむかえようとしており、西洋人らが悪徳を持ち込もうとしているように思われてならない」と。日本人としての不文律は社会制度で決まっていたものではなく日本人本来の主體的気質で決まっていたのではなからうか。多数の原稿を深く感謝致します。

(小坂 記)